

2001年度大須オペラ,  
メイヤック&アレヴィ作『ブン大将』台本翻訳(下)

—名古屋における演劇社会学の試み資料編

The Latter Part of the Translation of Meilhac & Halévy's *La grande duchesse de Gérolstein* Prepared for the Ôsu Opera Performance by Super-Ichiza in 2001:  
Documents for the Sociology of Theater in Nagoya

鎌田大資

Daisuke KAMADA

第2幕(承前)

(お城の広間。上手前景に女大公の居室につながる扉。上手中景に、全身鎧で武装した騎士を描いた絵で偽装した隠し扉。下手の向かい合う位置に別の絵。下手前景に扉。奥に回廊に開かれた大きな張り出し窓があるが、垂れ幕で覆われている。タピスリー織り機、床几数台、折り畳み式の椅子数脚。)

第1場 イーザ、シャルロット、アメリー、オルガや他の侍女たちは、座って仕事をしている。やがてネボムク。上手には、女大公の居室のまえを守る一人の衛兵が立っている。

Nr. 7a Chor der Frauen 女たちの合唱<sup>1)</sup>

1) 邪魔にならないということで、本訳稿の上編において仏独歌詞対訳のピアノ譜(Offenbach 1967)の曲名を挿入していたが、訳者の調査能力の不足のため、下編の該当部分では、特に2幕から3幕へ移行するあたりの曲の区切りなど、不明部分がある。上編の形式を踏襲してドイツ語曲名表示をつづけるが、残念ながら辻褄が合わない部分が残った。

合唱 とうとういくさも終わり、  
軍務も終了するでしょう。  
この日のうちに  
われらの恋人も戻るでしょう。

イーザ (下手を見て立ちあがる。ほかの侍女たちも同様にする。) 伝令よ! 伝令よ! 急いで、皆様、知らせがあるのよ。(奥に折りたたみ式の椅子を運ぶ。)

ネボムク (下手から入場。手紙の束をもち、中央に進む。) 手紙が欲しいのは誰かな…ほらこれだ!  
(もう一人の衛兵が下手から入り、タピスリー織り機を運ぶ。)

皆 こっちよ、ねえ、こっちよ。  
ネボムク (手紙を配り) ほらこれだ!

皆 ほらこれよ!  
ネボムク (上手の扉のほうに行き、衛兵に通してくれ、時間がない…  
女大公殿下直々のご用なのだ! (上手へと入る。衛兵あとに従う)

侍女たち全員 (それぞれの手に手紙を持ち)

どんな厄介ごとがあなたを待ちうけてい  
るのかしら、大好きな人からの手紙よ！  
読んで読みかえし  
読みおえた喜びといたら！

Nr. 7c Abgang der Frauen: Mein einziges Wissen

オルガ (手紙を開けて読む)

I

「ぼくは出発のとき、  
あなたの絵姿を胸にかけた  
この絵姿のおかげで  
けがもなしだ。  
無傷で家まで帰れたら、  
絵姿のおかげ！」  
(手紙にキスする。)  
ああ！ いとしい手紙、  
一日中  
お前を読みかえし、  
キスして暮らすわ！

アメリー (同じ動作)

II

「戦争はもうすぐ終わりで。  
ぼくは明日、帰る。  
猛烈に急いで、いとしい人よ、  
あさってには  
ブーツを履き替える間も惜しみ、君のマ  
マのもとへ行き、  
君との結婚をお願いするよ。」  
ああ！ いとしい手紙、など。

シャルロット (同じ動作)

III

「いくさに出る時、どんなに震えていたか。  
炎をまえにして、怖くて死にそうだった！  
どんなに手ひどくやられても、  
君への恋が慰め」  
ああ！ いとしい手紙、など。

イーザ (同じ動作)

IV

「昨日、いくさには勝ったそうだが…  
せめて、そうだといいんだけど。  
とはいえ、そんなことどうでもいいのさ、  
知っての通り、  
愛しいイーザのキスほど  
大事なものはないんだから。」  
ああ！ いとしい手紙、など。

皆 ああ！ いとしい手紙、  
一日中  
お前を読みかえし、  
キスして暮らすわ！

イーザ (オルガのところに行き) あんたの  
手紙には何と書いてあるの。

オルガ いろいろよ…あんたのは。

(イーザ、自分の手紙を見せる)

アメリー (シャルロットに) おお！ それ  
がわかってればねえ！…

シャルロット それ見せて…

アメリー いいですとも…あんたのも見せて  
くれるんでしょ…

シャルロット どうぞどうぞ…

(お互いに手紙を見せ合う)

オルガ (シャルロットの手紙を見て)

おお！ あの人あんたにそんなこと書いて  
きたの…

イーザ そうなの…あたしにも見せてよ…駄  
目なの…

オルガ (手紙を見せながら) わたしのも…  
ほら！ 見てよ…この…線を引いてある  
ところ！…

(ほかの侍女たちは中景で同じことをし  
ている。下手よりボール王子とグログ男  
爵入場。侍女たちは少し奥へ下がる。)

第2場 前場と同じ、ポール王子、グログ男爵、やがてネポムク、やがてブン大将とピュック

ポール王子 おいで、男爵、おいで…今日こそ、そなたも謁見の運びとなるはずだ…  
グログ わたしもそう信じております、王子様。

ポール王子 謁見状は持っておるか。

グログ (見せながら) これでございます、王子様。

ポール王子 おお！ それなら大丈夫…お嬢さん方、こんにちは！（お辞儀する）

アメリー (笑いながら) こんにちは、ポール王子様！

シャルロット (同じく) お気の毒な王子様！  
…

イーザ (同じく) ご不運な王子様！…

ポール王子 (グログに) この娘たちにも笑われている。

グログ わたしにもよく聞こえております！

ポール王子 こんなことにはもう飽き飽きだ…ご嬢さん方、グログ男爵をご紹介できることを光栄に存じます。わたくしのパパの使いです。

侍女たち (お辞儀しながら) 男爵様！…

グログ (お辞儀しながら) お嬢様方！…

ポール王子 本日のための謁見状を持参いたしております。

イーザ 本日のための…

ポール王子 そう、その通り！ 本日のためです… グログ男爵が参りましたことを殿下にご奏上願えませんか。

オルガ ですが、王子様、それはわたくしどものお役目ではございませぬ。

シャルロット 副官におことづけくださいまし。

(上手からネポムク入場)

アメリー この者でございます。

ネポムク 大ニュースだ！… 1時間のうちにフリッツ大将がここにお戻りになり、盛大な式典がある…勝者として、お戻りだ…殿下は有頂天であらせられる！… (4歩進み、繰り返す。) 有頂天だぞ！… (また4歩進む) 有頂天だぞ！… (舞台を横ぎり意気揚々と下手から退場。)

イーザ (満面の喜び。) 帰ってくるのね！もうすぐお目にかかれるわ！

(下手よりブン大将とピュック入場。衛兵が二人についてきて、扉のところとどまる。)

ピュック おいで、侍女のお嬢さん方、急いで！…女大公殿下がお待ちだぞよ！

ブン大将 急ぎなされ、お嬢さん方！

侍女たちの合唱

ああ！ いとしい手紙、など。など。

(上手から退場。ブン大将とピュックはポール王子にお辞儀する。)

ポール王子 さて…こちらが当家のグログです！

ピュック ご安心なさい…

グログ 何ですと。

ブン大将 男爵様の謁見の儀が就りおこなわれるのじゃ…衛兵、男爵をご案内し、指示の通りにいたせ… (グログに上手の扉を示す。) 男爵様…

グログ (お辞儀して) ただいま参ります、將軍… (扉の方へ向かう)

ポール王子 (ついて行きながら) さあ行け、グログよ、張りきってくれ！

(グログは衛兵に先導され、上手から退場。)

第3場 ピュック、ポール王子、ブン大将。

ポール王子 (中央に戻り、有頂天で) とうとうですね！…ああ！皆様！…

ピュック そういうわけです、王子様…

ポール王子 ぼくがどんなに興奮しているか、おわかりにはならないでしょう！…あの方がグログ男爵の謁見に同意なさったのだ！…目に見えるようだ…あの者が回廊をすすみ行き、小さな接見の間に入っていくのが…

ブン大将 さようです…

ポール王子 あの方は小さな接見の間を通り過ぎ…

ピュック さようです…

ポール王子 左に曲がる…(ブン大将とピュックは激しく否認する。)門衛が立ちあがり、彼の来訪を告げ…あれが対面して向かいあう…

ブン大将 おお！ですが…早合点ですな！…全然、そんなことはありません…男爵は左に曲がるのではなく、右に曲がるのです…衛兵に先導されるままに…あの方が対面するのは階段です…わたしたちがおしゃべりしているあいだ、その時、彼はそれを登っている途中に違いない…登りつめると、半ダースほどの客間を通り過ぎ、もう一つの階段に対面する…そしてそれを下りる…彼はまた横切り、また登り、また降りて、また横切ります…

ピュック またまた上がり…

ポール王子 またまた下りて…

ピュック てなところです…とうとう、彼は小さな扉に辿りつく…扉はすっかり開けはなたれている…そこであなたのグログは自分の馬車に出くわす…衛兵は丁重に、彼が馬車に乗るようと案内し、謁見はまたの機会まで延期になったと告げるのです…

ポール王子 それが勅命の次第ですか…

ブン大将 おっしゃる通り！…

ポール王子 女大公はそこまでなさるのです

か…

ピュック そりゃ、なさりますとも…でもね、王子様、あなたの頭がおかしいのですよ…(すり寄りながら)わたくしがあなた様へお払いすべき敬意で割りびいても、フリッツ大将の帰還の日に、しかも大勝利を挙げて凱旋の日に、女大公が彼の出迎えの準備をする<sup>2)</sup>以外のことに手間を取るなどと、想像するだけでも狂ってますわい…

ポール王子 (怒って)フリッツか！…またもや！…おお、あの野郎め！あの野郎め！…

ブン大将 (意味ありげに)奴はじき戻ってきおるわい…凱旋してきおるのじゃ。

ポール王子 (不気味に)ふむ！…奴が凱旋してくるとして！…そのあとは…

ブン大将とピュック そのあととは…

ポール王子 (本心を隠しつつ)何も…何も…何も申し上げておりませんよ、皆様…何もいいたいことはありませんとも。

ピュック (ブン大将に視線を飛ばし、遠くから小声で)このままではすまぬ…

ブン大将 (小声で)それでは、何もかもぶっちゃけましょう…(外で大砲の響き。元氣よく)敵襲じゃ！敵じゃ！(サーベルを抜き、突進しようとする。)

ピュック いえいえ、敵ではありません！…(意味ありげに)われわれの敵ではありませんがね！…

ポール王子 (まえに出てきて)フリッツ大将だな！

ブン大将 失礼！…15日間というもの何も手につかんのじゃ…いくさが恋しくてなあ

2) 英訳 (Offenbach, J., 1867:23) では、髪の毛をフリッツ風にちりちりさせる (fritzing) というおもしろい表現になっている。frizzle で髪の毛を縮らせるの意となる。

…

(奥の垂れ幕が開く。二人の衛兵に先導され、お城の全員が入場。)

第4場 前場と同じ、ネボムク、廷臣たち、二人の衛兵、やがて女大公、イーザ、オルガ、シャルロット、他の侍女たち、小姓たち、フリッツとその参謀。

Nr. 8 Chor: Nach glorreichem Siege

合唱 勝利のあとで

われらの兵隊が戻る。

その栄光をたたえ、

いくさの神をたたえよう。

(この合唱のあいだ、女大公が上手より入場。二人の小姓が先導し、侍女たちが従う。彼女らは上手にとどまる。二人の小さな黒人が御殿用の外套の裳すそを持つ。彼女を見ると、ポール王子、ブン大将、ピュックは彼女に向かって突進して、うやうやしく身をかがめる。)

女大公 (脇ゼリフ) とうとう、彼に会えるのね! 無上の喜び!

あの者の顔を見て、わらわの愛を隠しおおせられるかしら。

(二人の衛兵が上手から大きな大公用の玉座と小さな足代を運ぶ。それらをやや上手に置き、奥に引っこんで両扉の脇に控える。)

合唱の繰り返し 勝利のあとで、など。

(この繰り返しのあいだ、女大公は玉座にすわり、侍女たちに取りまかれる。フリッツは奥より入場し、きらびやかな参謀が従う。彼は女大公に近づき、御前にひざまずく。彼女は内心の高揚をつつみかねている。合唱が終わり、フリッツは立ちあがる。)

Nr. 8a Rondo (Fritz): Vormarsch durch Dorf und durch Gemeinde

フリッツ (女大公に) 上様、四日間でわたくしはいくさを終わらせました!

殿下の兵は勝者となり、敵は逃げさりしました!

そして今日ここに、殿下の父君の誉れたかいサーベルを持ちかえりました。

(士官たちの一人の手からサーベルを受けとる。)

女大公 (有頂天で、立ちあがり、サーベルを取って口づけしながら)

これぞ、わが父のサーベル!

皆 これぞ、あの方の父君のサーベル!

女大公 (威厳に満ち、ネボムクにサーベルを渡す。彼は女大公に近づいてその上手に控える。)

砲術の博物館に戻しましょう。

(ネボムクはサーベルを持って立ちさる。フリッツに語りかける。)

また汝、勝利に飾られた兵士よ、

このびりびりと感激に震える廷臣どものまえて、

栄光に満ちた偉業について語りなさい! 話しなさい!

皆 栄光に満ちた偉業について語りなさい! 話しなさい!。

フリッツ 申し上げましょう。殿下、

戦闘の

結果を、

またわが力のおかげで

敵を

驚かせた顛末を。

ロンド

整然と隊伍を組み、われらは出でたつた、軍旗は風になびく、

4日後には、われらは12万の  
敵が従軍しているのを見た。  
全隊止まれと号令かけて…  
胸に策あり、  
さあ、ご覧じろ！  
それほど、愚策ではありません…  
気配はなくとも、  
鼻でわかります！…  
30万本のびん詰め  
半分はワイン、半分は蒸溜酒。  
よくお聞きなさい！これらすべてを  
略奪者に盗ませてやったのです。  
歡喜にあふれる敵の野営地を見なさい。  
「ワインだ、飲もう、  
そして酔うぞ！」  
敵の理性はワインでおぼれ死にです…  
わたくしは期待をこめて  
待ちました。  
翌日には、歡ばしき前兆です！  
敵はわれらの挑戦を受けたのです！  
隊伍を整えたものの、  
まあ、神さま！ 何たるていたらく！  
敵は平野にちりぢりばらばら、  
よろよろ、ぐるぐる、  
ぶるぶるして、  
風に吹かれる小麦の  
畑さながら<sup>3)</sup>、

3) *comme un grand champ d'aveine*. 特に慣用的な意味はないが、難解句。*aveine*は*avoine*でマガラス麦、また*Avoine*はノルマンディーの地名でもあり、これをノルマンディー風に発音したもの。この句はフリッツがノルマンディー出身の伊達男だということを示しているのかもしれない。もちろん現地にはいろいろな体形の人がいるが、1幕8場でフリッツが小柄な兵隊にはさまれて長身の色男ぶりを強調されているところからも、ノルマン・コンクエストを成しとげたアイスランドに発祥するバイキングの血を引く長身の人たちを連想させる(Meilhac & Halévi 1867: 200, 202=2020: 16)。現在ではむしろイギリス人風の大柄で細身の人という感覚になるのではないか。本訳稿では難解語句の注釈のためにインターネットでの検索結果を自由にもちいているが、各種専門辞典の内容が転載され

揺れてます！  
ほろ酔い気分の敵の軍隊の先頭に、  
赤目の将軍がいて、  
ラッパみたいに酔っぱらって<sup>4)</sup> 飛びあがり  
わたしを呼びます。「おーい！おーい！」  
と。  
「さあ来い、じいさん」わたしが答えま  
すと、  
すぐに、  
気の毒な道化さながら、  
怒ってピンをうち振り、  
よろめきながら  
「前進！」ときたもんです。  
おお！死ぬほど笑いころげましたよ！  
このひょうきんな将軍のもとので、  
全軍が有頂天で、  
間拔けな母さん(Mère Godichon)<sup>5)</sup>を  
歌っていたのです！…  
このいくさはおかしなものでした！…  
そして敵は押しよせて、  
全員倒れたのです。  
他の者も、誰一人殺してません。  
ひどい結末になったかも知れないのに！  
…  
結果オーライです。  
殿下の兵どもは驚くべきことを成しとげ  
ました。  
その晩は、感激に胸高鳴らせ、  
その晩は、びんの転がった戦場で、

ているものが多く、特に出典は明記しない。

4) または、トランペットみたいに(銀)灰色で(*gris comme un trompette*)。女性名詞*trompette*の不定冠詞がなぜ*une*でないのかも含めて謎の表現。*trompette de la mort*というキノコを連想させるのかも知れない。顔色が悪いことを言っているのか、酔っているという意味か、あるいはその両方なのか、不明。

5) この句も意味不明だが、ほんとうにそのタイトルの歌があったのかもしれない。



勝利に飾られて眠ったのです！

皆 フリッツ大将万歳！

女大公（立ちあがり） 將軍，でかしましたぞ！…そなたの演説はいくさそのものと同じくらい力強かったぞえ…（廷臣たちに）紳士淑女の皆さん，この威厳に満ちた儀式もお開きです… ジェロルスタン大公国が栄えるために，フリッツ大将一人しか聞いてはならぬことどもをわれわれから伝えねばなりません。したがって，もう下がってよろしい…解散です！

ポール王子（小声でピュックに） やつと二人きりかい！…

ブン大将（小声で） いい気なもんじゃ！…いい気なもんじゃ！…

ピュック（小声で） 我慢なさるのですか，王子様。

ポール王子（同じく） ああ！ 何か手はないものかねえ！…

ブン大将（同じく） ある，かもしれませぬ。（この一連のやり取りは極めて素早くなされねばならない。）

女大公（廷臣に） 解散ですよ，皆様…お城の皆様，解散です！

#### Nr. 8b Abgang des Chores

合唱（繰り返し） 勝利の後で

われらが兵たちが戻る，など。

（廷臣たち全員，舞台奥に去る。ポール王子，ブン大将，ピュックは腕を組み合せて彼らに従う。衛兵たちは最後に退場して奥の垂れ幕を占める。侍女ら，黒人ら，小姓らは上手から退場。女大公とフリッツだけが残る。）

第5場 フリッツ，女大公。

女大公 誰もおらぬな！

フリッツ ええ！ 誰もおりませぬ！

女大公 將軍！…

フリッツ 殿下…

女大公 そなたと会えてうれしいぞよ。

フリッツ わたくしもであります。

女大公 ありがとう。

フリッツ めっそうもない，まったく，めっそうもございませぬ。

女大公 わらわはわらわ自らがなしたことを祝うておるのです…わらわがそなたに目をとめた時，そなたはただの2等兵であつたろうがのう…

フリッツ ただの哀れな若い兵士でございました…

女大公 わらわはそなたを全軍総司令官となし，そなたは敵を討ちほろぼした！

フリッツ ああ！さようでございます！…

女大公 そなたが得るべき報酬について話しあおうではないか…

フリッツ それはまことに望ましいことですが，殿下，どういうよいことがございましょうかな。

女大公 何じゃぞえ！…

フリッツ わたくしは全軍総司令官でござれば…しばしお考え下され…全軍総司令官として，これ以上，身分を上げていただくことは無理でございましょう。

女大公 そう思うかえ。

フリッツ もちろん！そのようですが…この將軍の羽飾りもいただいたこととございますし…これ以上何を望めましょうか…

女大公 軍隊では，そうかもな，がしかし…

フリッツ がしかしとは。

女大公 だが，文官の身分において…

フリッツ ああ！ああ！（脇ゼリフ）おれには何もわからんが，どうということはない…おれに何かを与えてくれようというのだからね…

女大公 まず第一に、そなたは城に住むことになるぞえ。今朝、決まったことじゃ。ブン大将の提案でな。

フリッツ (驚き) ブン大将のご提案ですか。

女大公 さようじゃ。あれがわらわの勅命により思いついたことじゃ。

フリッツ (笑いながら) 怒りで煮えたぎったはずだ!…

女大公 そなたはわらわにあれを追放させたいかや。

フリッツ おお!とんでもない。あの方もしんから悪い方でもござりませぬ!…(笑いながら) ああ! ただ女のごことでございますよ、何もかもね…女のことなのです。

女大公 女のこと。

フリッツ 他でもございません!

女大公 いなかの娘たちは幸せものじゃ!…いなかの娘がいなかの男を恋したなら…娘は男のところに行き、正直にこう言うのじゃ…

フリッツ 「あなたのこと、好きよ!」

女大公 かわゆくべちんとたたきながら!しかし、わらわの身分では事情は違うぞえ…わらわどもが恋すれば、回り道して、あいまいに話を聞かせるのじゃ…さて、近う、寄れ、ここだけの話じゃが、城に一人の淑女がおってな、そなたをととても恋い慕うておる。

フリッツ あなた様のお城にでございますか…あれまあ!

女大公 そうじゃ…そなたのもとへ行き、正直に打ちあげるのではなく…

フリッツ かわゆくべちんとたたきながら!…

女大公 わらわに打ちあげおったのじゃ。

フリッツ 殿下にですか。

女大公 わらわにじゃ。

フリッツ おお! ですが、こう言ってよければ陰謀じみてますな!

女大公 陰謀じみておるのじゃ。

フリッツ (笑いながら) 笑うところでございましょう、ねえほら…笑うところでございますね!

女大公 (不機嫌に) 何が、笑うところか…

フリッツ (脇ゼリフ) ああ、しまった!あの…笑っちゃいけないみたいだから…まじめな顔でいよう。(大きく) そうですな、ですがまずご教示ください…その淑女の…お人柄は良いのでしょうか。

女大公 これほど美しいおなごはおらんとわらわの家来どもは申しておる…またその身分については、話すことはできません。

女大公 どうしてまた。

女大公 一言しか伝えられぬ。すなわち、その階級、その名譽は、そなたへの十分な褒美となるものとわらわも喜んでおるぞ、きっと、お主もそれを手にしたいと思うはずじゃろう。

フリッツ わたくしの立場になってお考えください!…

女大公 おお!若者よ、終身特権のようなものを手に入れられるなら、それがいやなことはあるまいて。

フリッツ 終身特権ですって…(脇ゼリフ)こりゃあ、新設の身分だな。

女大公 さあ!わらわが話をしておる者は…そなたが望みうるいかなるものをも与えられるほどの強大な権力者じゃと知るがよい…

フリッツ ああ参った!…ああ、いやはや!…

女大公 そなたの未来は、かのおなごの手の内にある…また、さあ、もうわらわが誰の話をしているかわかったであろうの。(下手へ歩く。)



フリッツ 一言だけ、もう一度…一言だけで  
察することでござりましょう。

女大公 どの一言じゃ。

フリッツ そのご婦人のお名前は。

女大公 名前かえ。

フリッツ さようです。

女大公 その名を推量することは禁じられて  
はおらぬ…が、口にはすることはできぬ。

フリッツ (脇ゼリフ) 参った! …それを知っ  
ても…またやっかいだ… (大きく) まこ  
とに名前も仰せになれないのですか。

女大公 (微笑みながら) 陰謀じみた話じゃ  
からなあ! …

フリッツ 恋の陰謀ですか。

女大公 さよう、そなたの申す通り、恋の陰  
謀じゃ…

フリッツ それなら、そのお友達から、殿下  
を通じて何か、おことづてがございま  
しょう…

Nr. 9 Duett (Großherzogin, Fritz): Sage ihm, daß  
man kaum ihn geseh'n

女大公 わらわの友の申すことじゃ、  
「彼に会ったら、  
お願い、  
ご存知のことを話してね…

ロンド

彼に言って、人目に  
立っているわよって。  
彼に言って、かわいいって思われてるわ  
よって、  
彼に言って、お望みなら  
できないことは何も  
ないのよって! …  
ああ! 勝利の栄冠を飾るのに  
花束を加えるなら  
すぐに摘んでいいのよ、

この勝利者にを、もう一つの勝利を! …  
彼に言って、ちらっと見るだけでも  
うれしいわって!

彼に言って、首ったけよって!

彼に言って、こんなにこころを盗ん  
じゃって、  
泥棒めって!

こんなにこんなにわらわは馬鹿になっち  
まって! …

まあ! あっという間だったよ。

彼が現れてから、わらわの全存在が  
わらわのこころのありたけが彼にささげ  
られたのよ。

わらわは主人を見つけたのがわかるわ!

彼に言って、わらわが身まかるのを  
望まないなら、

彼に言って (友のために言うのじゃが)

彼に言って、返事をなさいましよ、はい  
と!

彼に言って、

わらわはそなたが好きなのって、わらわ  
は美人よって! …

さあ、ほら、わらわに、すぐに答えよ。

フリッツ (脇ゼリフ) おれの運命はこれに  
かかっている。

賢明でいよう。

女大公 答えよ。二言で十分じゃ。

その淑女に何と伝えればよいのじゃ。

フリッツ こうおっしゃってください。物わ  
かりは良いほうですと…

女大公 そう伝えよう。

フリッツ おことづてはいやなものではござ  
りませぬ…

女大公 そう伝えよう。

フリッツ そして誠心誠意、いそいそと…

女大公 そう伝えよう。

フリッツ ていねいなお志しにお返しをいたします。

女大公 そう伝えよう。

フリッツ (脇ゼリフ) こうは言ったものの…わが言葉にかけて…  
何一つわからないんだけど…  
まるっきり何も！  
またもし、この人が誰かわかったら、  
悪魔に呪われても構わない！

女大公 それで…

フリッツ それで…それで…  
こうおっしゃってください…物わかりは  
良いほうですと…

女大公 そう伝えよう。

フリッツ おことづてはいやなものではござりませぬ…

女大公 そう伝えよう。

フリッツ そして誠心誠意、いそいそと…

女大公 そう伝えよう。

フリッツ ていねいなお志しにお返しをいたします。

女大公 そう伝えよう。

一緒に

女大公 (脇ゼリフ) この者はすぐに飲みこんだようじゃ、  
こころで考えればわかるはずじゃからな。

フリッツ (脇ゼリフ) これじゃ何一つわからないぞ、  
おれは、知恵のある方だが。  
(フリッツ、調子を張りあげ、女大公は上手へ歩いて着座する。)

フリッツ (脇ゼリフ、舞台前面に進み、考えこみながら) さて、どうするか！…この身分、この名誉…また羽飾り…おれがこの全部を持っているのは明らかだ…

また、このえらい淑女が…おれを愛しているのも…こりゃ望み得る最高の手づるじゃないかね…

女大公 (彼をしげしげ見つめ) 將軍…

フリッツ (終始、脇ゼリフ) でも、ワンダは…ワンダもいるぞ…困っちゃうね！

女大公 (もっと大きく) 將軍…

フリッツ (振りむき) 殿下…

女大公 こっちゃんへ、そば近う参れ。

フリッツ (舞台を横ぎり、脇ゼリフ) 困っちゃうぞ！(女大公の足置き台のところに来てひざまずく。)

女大公 そうではなく…座りゃ…ここじゃ…  
(フリッツは足置き台に座る。胸のところの飾りを示しながら) こういう飾りもそなたにはよく似合うぞえ！…不足と思えば、わらわにもっととねだればよいのじゃ…じゃが、わらわはこんがらがっておる…どこまで行ったのやら…そなたに話をしてもらいたいこの娘じゃが…結局、そなたはまだ返事をしておらぬ…一般的なことの範囲にとどっておるようじゃが…

フリッツ (笑いながら) いやあ、参った！  
…わたくしは將軍ですから…

女大公 (無理に作った笑い) ああ！素敵！  
…素敵！…が、ことばのたわむれはおしまいじゃ…答えねばならぬ。

フリッツ ああ、こりゃあ…この淑女はことづてを願うだけでなく、何としたことだ…答えも持参するやうにと望んでいるのですか…

女大公 まさしく！…どうじゃ…

(彼女はフリッツの首の詰襟の階級章を片手で神経質にもてあそぶ。)

フリッツ (顔をしかめ) ああ！…

女大公 何じゃ。

フリッツ 何でも…そんなに襟を引っ張られ

では、くすぐったくてなりませぬ…

女大公 許してたも…

フリッツ 結構です、お許しいたします！…

女大公 じゃが、さあ…申せ…答えじゃ…その娘の隣に座っておるとしてじゃ、わらわの隣に座っておるように…そなたが言うことはどうじゃ…

フリッツ うーん！ 参った！…

女大公 悪くないな、それも！…そなたがわりにしばしば使う言い回しじゃ…じゃが、そなたが言うとかわゆいぞ！…さあ、「うーん！参った…」と言ったそのあとはどう伝えるのか…

フリッツ あとですか…何と申し上げるかをお望みですか…いささか途方に暮れておる次第で！…

(奥からネポムク入場。手に書きつけを持っている)

第6場 前場と同じ、ネポムク。

ネポムク (奥から) 殿下…

(フリッツは立って、下手へ歩く。)

女大公 (たいへん元気よく立ちあがる。) 誰じゃえ…わらわが呼んだかえ…

ネポムク (まえに出て) 秘密警察の長官が…殿下をお待ちしております。

女大公 (いらいらして) ああ！ わらわにも思案に沈む時間はあるのじゃぞえ！…

ネポムク 殿下のお許しを願います…何やらえらく重要な件らしいのです。

女大公 およこし。

(彼女は報告書を取る。ネポムクは奥に下がって女大公の命令を待つ。)

フリッツ (脇ゼリフ) ああ！ ワンダがいなければ！…でもワンダはいるんだよ！…困っちゃうよ！…

女大公 (この間に手紙を開け、脇ゼリフとして読みながら) 「明るみに出たスキャ

ンダル…フリッツ將軍の不品行…ワンダという若い娘を…彼が街に連れてきていた」(中断して独白。) おお！おお！ 察しておくべきであった。(大きく、ネポムクに) そこにいるのは、秘密警察長官本人と申されたか…

ネポムク (少しまえに出て) はい、殿下。

女大公 (脇ゼリフ) ワンダ！…あり得ぬことじゃ！…(大きく、フリッツに) しばし待て、將軍、すぐに戻って参る…お許しあるか…

フリッツ ええ、許します。

女大公 されば、しばし待て！…(ネポムクに) ついて参れ、大尉よ。

(奥から退場、ネポムクついていく)

第7場 フリッツ、一人。

フリッツ ああ、ほれ！…まったく困ったものじゃないか…もしあのご婦人にこう言えば「あなたを愛することはできません…他に好きな者がおります…」、このご婦人はお怒りだ…何よりあの方が勘違いするよ…毎日のように、夕食のご招待を受けてさ…答えは「申し訳ありませんが…先約がございますので…」、夕食がおいしくないかとか心配だというところか…いや…正直なところ、ただ先約があるというだけのことなんだよ…でさ、このご婦人が怒れば、勘違いするよ…おれが招待されていることを女大公に、おしつけにも知らせたら…そのことをあの方がお友だちにもお知らせして…それでおしまいだ！

(オーケストラの音楽。謎めいた雰囲気漂わせながら、奥からポール王子、ブン大将とピュック入場。)

第8場 ピュック、ポール王子、ブン大将、  
フリッツ、やがてネポムク。

フリッツ (脇ゼリフ、彼らを見て) ああ!  
3人お揃いだ!

ピュック (フリッツを見つけて、小声で他  
の二人に) こやつ、ここにおったか!…

ブン大将 (小声で、ポール王子に) かねて  
の手はず通り、一時間かけるとしましよ  
う。

ネポムク (奥から入場してフリッツに) 将  
軍…

フリッツ 何かね、大尉…

ネポムク 国務のため殿下は手間取っておら  
れます…あなた様をお館の右棟のお部屋  
にご案内するよう、殿下はお申しつけに  
なりました。(また下がって、奥にとど  
まる。)

ピュック (小声でポール王子に) お館の右  
棟とな!…

(ポール王子は理解できない。)

フリッツ (ネポムクに) そうですか、それ  
じゃあ…(脇ゼリフ) よくよく考えたう  
えで、この人から殿下にご説明してもら  
おう。ワンダと結婚したいのですと、結  
婚はできるだけ急いでしたいですとも…  
(大きく) さて、お館の右棟ですね!…  
(ポール王子、ブン大将、ピュックにお  
辞儀しながら) 皆様…

ポール王子、ブン大将とピュック (お辞儀  
して) 閣下!…

フリッツ (軽蔑のまなざしを送りながら)  
やれやれ! 哀れな兵隊野郎にも道はお  
のずと開けるか!

ブン大将 (彼のところまで出てきて) 何で  
すかな…

フリッツ うう!…最悪の將軍め!…  
(ブン大将、憤激の身振り、ピュックが  
彼を抑える。フリッツは奥から退場、ネ

ポムクがつづく。)

第9場 ピュック、ポール王子、ブン大将。

ピュック (ポール王子に、意味ありげに)  
あの方は館の右棟をあやつのために用意  
するようにとお申しつけだぞい!…聞い  
たかや…右の棟じゃよ!…

ブン大将 (同じ動作) 全然、驚くことはな  
いわい。

ピュック わしもじゃ。(ポール王子に) あ  
なたにはおわかりにはなりますまいな。

ポール王子 全然。

ピュック すぐにわかりますじゃ。(下手に  
ある肖像画を指して) あの肖像画がお見  
えになりますか…

ポール王子 はあ…見えますが…

ピュック さあ…あの気高い方の左の長靴を  
力いっぱい押しなされ…

ポール王子 何とおっしゃいます…

ブン大将 押しなされと申しましたじゃ…

ポール王子 (肖像画のところに向かうが、  
不安で立ちどまる。) わたくしをコケに  
なさるのか!…

ピュック いやいや…仕上げをご覧くださいろ…

ポール王子 仕掛けはわかっているよ…パネ  
でも仕込んであって!…鼻っ柱になんかが  
飛びだしてくるってんだろ…

ブン大将 いやいや…さあ、参られい!…

(ポール王子がボタンを押すと、肖像画  
がうえに上がり、パネルがゆっくりと開  
く。一陣の冷氣のためにポール王子は飛  
びすさる。怪しい物音が廊下にひびき渡  
る。舞台裏でクラリネットがふくろうの  
鳴き声をまねる。)

ポール王子 ありゃ!隠し部屋だ!

ブン大将 (深刻ぶったしぐさでポール王子  
を舞台前面に連れてくる) いや!隠し部  
屋ではござらぬ!…

ポール王子 ジャあ、何さ。  
 ピュック ふくろうの鳴き声ですよ。あの扉  
 が最後に開いてから長い年月がたってお  
 る…（お話を語りはじめのように）200  
 年以上まえのことじゃ…  
 ポール王子（ピュックのところに行く）ほ  
 くにしてくれるお話があるみたいだね…  
 ブン大将 いたましいお話じゃ！…  
 ポール王子（ピュックに）お話して。  
 ピュック 喜んで…この廊下には二つの出口  
 がある…  
 ポール王子 だいたい廊下はそうだよ。  
 ピュック 一方はこの部屋、もう一方はお館  
 の右棟に通じておる。その棟に将軍が住  
 み…  
 ポール王子 ほう！…  
 ピュック こっちには殿方の肖像、あっちに  
 はご婦人の肖像がある…ここで、ドアを  
 開けるには男の長靴に触るしかない。向  
 こうではご婦人のひざに触るしかない。  
 ポール王子 ひざかい…  
 ブン大将 絵描きの気まぐれじゃな…ここに  
 描かれた男は、存命中、マックスと呼ば  
 れ、セドリッツ・カランプールの伯爵  
 だった…向こうに描かれたご夫人はヴィ  
 クトリーヌ女大公と申され、われらが女  
 大公のおばば様じゃ…  
 ポール王子 そういうことかい。

Nr. 10 Ballade (Buffo-Terzett Bumm, Paul,  
 Puck): Es gift aus dunkler Zeit, Als Soldat  
 war Max

トリオ

ブン大将 お察しにはならぬか…陰気なお話  
 じゃよ！  
 ピュック お城の壁がその記憶を守ってお  
 る！

バラッド ブン大将

I

マックスは幸運な兵隊だったが、  
 輝く瞳に  
 茶色い口ひげをしておった…  
 憧れの君じゃった！  
 女大公はりこうな娘で、  
 このかわゆい若者に  
 想いを寄せたのじゃ…そして右の棟に  
 彼を住ませた。  
 恋に酔いしれ、  
 マックスは毎夜、  
 愛人がこの廊下を  
 忍んでくる足音を聞いたのだ！

ポール王子、ブン大将とピュック

（華やかに）聞けよ、未来の人類、  
 聞けよ、聞けよ、この恐ろしき逢瀬を  
 そしてマックス・ド・セドリッツ・カラ  
 ンプール伯爵の  
 愛の物語を…

ピュック

II

ある夜、マックスは恐れおののいた、  
 つんばではなかったので、  
 愛人の足音が  
 いささか重いように思えたのじゃ。  
 耳にノミでも入ったような気がした…  
 もう遅すぎた、ああ！  
 なぜ夜番の役から逃げださなかったか…  
 その足音…その足音こそ…

1 ダースもの暗殺者の

足音だった。

やつらは陽気にお気に入りのどてっ腹を  
 突き刺したのさ！

ポール王子 1 ダースもの暗殺者が！…

ブン大将 黒覆面で！

3人全員 この廊下を通って！

重唱の繰り返し 聞けよ、未来の人類、など。

(ブン大将は廊下のドアを閉め、ポール王子の近くに帰ってくる。)

ブン大将 (ポール王子に) さあ、おわかりかな。

ポール王子 もうわかりましたけど…恐ろしい話ですね!

ピュック あいつもわしらの一撃でいちころさ。

ポール王子 マジなのかい…ならできそうだし…

ピュックとブン大将 あいつもわしらの一撃でいちころさ。

ブン大将 日が暮れたら、あいつを廊下の突き当たりの小部屋に入れとこう。

この伊達男を

廊下の奥に入れとこう!

一緒に (たいへん陽気に) 日が暮れたら、あいつを入れとこう、など。

ブン大将 今夜もふけた頃、酔いしれて聞くがよい。どういふわけかお前が恋人の軽やかな足音を聞かなければ!

ブン大将 この足音、この足音、このかわいい足音、この足音、この足音、このかほそい足音!

三人揃って お前には聞こえまい、ニコラ! いやいや、お前にはそれが聞こえまい! この足音、この足音、このかわいい足音、この足音、この足音、このかほそい足音!

(さらにまた陽気に、ダンスの軽やかな身振りも入れて)

日が暮れたら、あいつを入れとこう、など

ブン大将 栄光の夢を見て、「われこそ大公」などと独り言するとき、暗い夜にやってくるのは、やってくるのはポール、ブンとピュックだ!

ポール王子 ポールが来たよ!

ブン大将 ブンが来たよ!

ピュック ピュックが来たよ!

三人揃って そうさ、ポール、ブン、ピュックだよ。

重唱 (狂ったように陽気に、たいへん元気に踊る。)

日が暮れたら、あいつを

廊下の突き当たりの小部屋に入れとこう。

この伊達男を

廊下の奥に入れとこう!

(オーケストラでは音楽がつづく。女大公が舞台奥から入場し、ポール王子、ブン大将とピュックを見ながらはなれて立ち、聞き耳を立てる。)

第10場 前場と同じ、(奥に) 女大公。

ポール王子 わかったよ…それじゃ悪だくみだな。

ブン大将とピュック 悪だくみだ!

ポール王子 1時間後に、わたしの宿舎で…それでよろしいか…本部を設営しよう。

ピュック 飲み物も揃っておるか。

ポール王子 うむ、用意しよう。

ブン大将 女は抜きか。

ポール王子 (異議を唱える) おお、ブン大将!…悪だくみですぞ!…

女大公 (ポール王子とブン大将のあいだにやってくる) そうです、將軍。女が一人



加わります！

3人揃って（不安げに）殿下！

女大公 さよう，わらわじゃ！…

ピュック もうおしまいだ！

ポール王子 総員退避！…

女大公 恐れなくともよい…そなたらはフリッツ將軍に向かって悪だくみをしておったのじゃろう…よいよい，わらわも味方じゃ！

ブン大将（脇ゼリフ）何ですと！

ピュック（脇ゼリフ）これでいいのか。

ポール王子（脇ゼリフ）その方が安心だ。

女大公 フリッツ將軍のしうちを知っておるかえ…あの者はワンダとの結婚の許しを得られるようわらわに使いを送って参った！…願いは聞き届けたわえ…將軍は、いま、教会におる…そこからの行く先は…

ポール王子，ブン大将とピュック 行く先は…

女大公 そなたらがあの方を待ち受けておるところじゃ…館の右棟じゃ！

ポール王子，ブン大将とピュック（喜んで）お館の右棟ですな！

女大公 先ほどのトリオの繰り返し

日が暮れたら，あいつを

廊下の突き当りの小部屋に入れとこう。

この伊達男を

廊下の奥に入れとこう！

一緒に（狂ったように踊りながら）日が暮れたら，あいつを入れとこう，など。

幕おりる。

### 第3幕

（赤の間。ゴシック調の古めかしい部屋。

前景上手に扉。中景下手に別の扉。第三

景下手には，ヴィクトリーヌ女大公の全身像で隠された隠し扉がある。奥の下手

には窓があり，奥の上手には幕で隠された寝台がある。窓と寝台の間には〔壁につけて置く〕コンソールテーブル（console）。椅子数脚。前景の扉は垂れ幕に覆われている）

第1場 女大公，やがてブン大将

Nr. 11 Melodram<sup>6)</sup>

（幕が開くと，暗い空（から）舞台。上手から大型枝燭台（candélabre）を掲げた一人の小姓に先導され，女大公入場。部屋が明るくなる。コンソールテーブルに大型枝燭台をおいて小姓は下がる。女大公は一人で考えこみ，やがて小さな叫び声を発する。そのとき奇妙な叫びが廊下からそれに答え，ブン大将が下手第1のドアから入場。この無言の場面のあいだ中，祭りの音楽が聞こえ，遠くで鳴りつづいている。）

ブン大将（お辞儀しながら）殿下！…

女大公 さて，ブン大将，あの者は何をしておる。

ブン大将 ダンスしております。拙者が広間を出るときには，単独で行動中でした…

女大公 ダンスか！…さて，今のところ，この男はせかせか動きまわっておるが…お主は十分に時間をとってあのことの準備万端を整えておるのか…悲惨な事件を…でかすための…

ブン大将 心配ご無用…わしがあれに舞踏会の終曲（cotillon）<sup>7)</sup> が終わるまえに退出

6) メロドラマ。セリフのやり取りにかぶせてオーケストラで曲が演奏される技法，またはそこで演奏される曲のこと。現在の映像作品としてのメロドラマは，このような技法が演劇の演出技法として定着したあと，お涙頂戴の大悲恋劇を情感たっぷりの劇伴音楽とともに盛りあげる一つのジャンルとして派生したもの。音楽史的な解釈として，森（2017：34-37）を参照。

7) 19世紀には舞踏会などの終曲にもちいられたと

しても、殿下からお口添えいただけると  
知らせておきましたじゃ。

女大公 勅命を受けてのあれの様子はどう  
じゃったえ。

ブン大将 明らかに、機嫌を曲げておりました  
わい…こう申しました。「結婚式の  
日って楽しいもんだねえ！」と…

女大公 そんなことを申したのかえ。

ブン大将 そう申しました。

女大公 ああ！あれはあの娘をほんとに愛し  
てるんだねえ！…でも我慢じゃ！…我慢  
じゃ！…(身じろぎもせず床を見る)

ブン大将 何をご覧ですか、殿下。

女大公 ほれ、この板嵌めの床に大きな赤い  
しみがある…城にはじめての客が来た際  
に、このしみを指して、こういうのじゃ。  
「マックス伯爵がお倒れになったのはこ  
こでございます！…」と。本当にここか。  
わらわは何も知らぬ…ともかく、城の番  
人はこの話をしてちょっとした小遣いを  
稼ぐのじゃ。

小唄 (couplets)<sup>8)</sup>

## I

女大公 (重々しく) おお、過去の大きいなる  
教訓よ！

ブン大将 (同様に) 歴史の深刻な教えよ！

女大公 ここに劇が輝く！

———  
いう種類の曲。

8) この歌は底本には収録されている (Meilhac & Halévi, 1867: 266-267) もの、参照したドイツ語版ピアノ譜 (Offenbach 1967) でも省略され、各種のCDでも収録しない場合が多い。仏英対訳パンフでも省略されている (Offenbach 1867)。セリフのやり取りも本幕第3場冒頭でポール王子やネボムクラに加えて、隠れていた女大公が、再度、姿を表すまではカットされることが多いと思われる。その代わりにNr. 12 Couplet-Quartett von Blutfleckとして女大公やほかの共謀者を交えた暗殺者の歌が独仏歌詞併記のピアノ譜や録音には含まれている (Offenbach 1967)。これは初演時以降の楽曲の差し替えを含む演出変更を示す異同かと思われる。

ブン大将 真っ暗な夜に闇を照らす！

女大公 (とても陽気に) おかげで100年経つ  
ても、

この感動的な情景を語ることで、  
城の番人は  
地代を稼いでおるわけじゃ！…

一緒に 城の番人は

地代を稼いでおるわけじゃ！…

## II

女大公 かつてやったことをまたやるのだ…

ブン大将 歴史は大きな輪みたいなもの！

女大公 祖母が大罪を犯し…

ブン大将 子どもが生まれてまた始めるの  
じゃ！

女大公 おかげで、200年経っても、  
おぞましい情景を利用して、  
門番から子どもたちも  
地代を受けつぐのじゃ！…

一緒に 門番から子どもたちも

地代を受けつぐのじゃ！…

ブン大将 これで明日からは、お話しは二つ、  
見せるしみも二つになり…番人の小遣い  
のネタも二つになるというわけじゃて！  
…

女大公 おそらくはな…じゃが、お主の共犯  
者どもはいずこじゃ…

ブン大将 隠し廊下でわしを待っております  
…(隠し扉を示す。)

女大公 扉を開けるがよい。わらわはこの幕  
のうしろに隠れるとしよう。(自分が  
入ってきたドアを指す。)

ブン大将 それでほっとしました。

女大公 何ゆえじゃ。

ブン大将 殿下がその幕のうしろにいらっ

しゃらなければ、わしらの陰謀は…女抜きで進むことになりますからな！…

女大公 とはいえ、わしがいることを悟られぬようにせよ…最後のところで、時宜が良いと判断すれば、わらわが姿を現すぞよ…

ブン大将 （お辞儀しながら）殿下！…

女大公 さあ、そちの友らにご入来願えい…それでなるべく早くわらわを引っぱりだしてくれい！…（上手に隠れる。）

第2場 ブン大将、やがてピュック、ポール王子、グログ、ネpomク（全員、短剣で武装している。）

ブン大将 （一人、肖像画のところに行き）さあ、この絵だ…触らねばならんのは、ひざだな。（ひざにさわると、隠し扉が開く。ピュック、ポール王子、ネpomクとグログ男爵入場）一、二、三、四…ほかの連中はどこじゃ。（隠し扉が勝手に閉まる。）

ピュック 時ともなれば現れることでしょう…皆がそろってやってきたとしたら全員の遁走曲（fugue）で疑いの念を引きおこしかねません…

ブン大将 それも理屈じゃのう。

ポール王子 まず、計画の仔細を詰めないかね…

ブン大将 （ネpomクに）そなたに策はあるのかな。

ネpomク 拙者の知る限り、女大公の覚えもよろしからんと存ずる策でござる…

ポール王子 そちも悪よのう。

ネpomク 貧者の大望とでも申しますか。

ブン大将 （彼に手を差しだし）お手を取らせていただきますでしょうか。

ネpomク さあ、どうぞ、將軍。（二人は手を握りあう。）

ブン大将 こころの友は好もしいことじゃ！…（ポール王子に、グログ男爵を指ししめしつつ）この方も一味なのですな、王子様。

ポール王子 ええ、將軍。

皆 （お辞儀する）男爵殿！…

グログ （同様に）皆様！…

ピュック （ブン大将の近くに寄り）男爵は計画をごぞんじか。

グログ （無造作な調子で）隅から隅まで！…それがある男の殺害にほかならぬとも…

ポール王子 この部屋でなのですか…

ピュック さよう。ここでやつをぶった斬るのです…

ブン大将 さて、皆さん、謹聴を願います…（サーベルを抜く。）

ピュック こりゃまた何ですかな。

ポール王子 （びっくりして）さやに収めて！

皆 そう、そう、さやに収めて！…

ブン大将 （熱をこめて）大事をなさんとするならば、徹底的にやる覚悟がいるものじゃ！…横着を決めこもうとするやつがいれば、わしがばらばらに斬りきざんでやる。

ピュック 横着者なんて一人もござらぬよ…

ブン大将 （ポール王子を脅し）横着を決めこむ気なら、言っておくが、あなた様でもばらばらに斬りきざむぞ！

ポール王子 わかったから収めてよ！

ピュック さて今一度申しますが、横着を決めこむものは一人もありませぬ…われらのような者を理屈で言います方法はありませぬ。

ブン大将 （さやにサーベルを収め）武士に二言はないぞよ！…

ポール王子 さあ、もういいでしょう！…

（女大公が上手から現れ、ブン大将と

ピュックのあいだに来て座る。)

第3場 前場と同じ、女大公。

女大公 ともあれ、皆様方の短剣の刃にはよく研ぎをかけているのでしょうかね。

共謀者たち (お辞儀しながら) 殿下!…

女大公 そうです、皆様…わらわはそこにおりました…皆様の勇気を奮い立たせるために、必要とあらば、最後のときに現れるよう決意しておりましたが、その必要はなかったようですね…

ネポムク ぬかりは、ありません…

ピュック やつが来たならば、殿下もいらしてください!…

ブン大将 拙者がばらばらに斬りきざみます!

女大公 ああ! お祈りをなさい、皆様…

ピュック ご勅命を何とぞ!

女大公 頼みたいのだ。まず何より、あの者をぶった斬るにしても、顔は斬ってはならぬ…

グログ (下手の隅にいて、皮肉な感じにポール王子の影に覆れている。) ああ! それは残念!…

女大公 今のは誰かえ。

グログ (姿を現しながら) 拙者でござる。

女大公 そなたは誰じゃ…そなた以外の同座の共謀者は皆存じておる。だが、そなたは知らぬの。

ポール王子 これは当家のグログでございます。

女大公 御家来のグログ殿か…

ポール王子 ええ!…グログ男爵です…パパからの使いで…あなたがお目通りを許さなかった者です…

女大公 (グログを関心ぶかけに眺めながら、ポール王子のところに近づく。) わらわの失策であったぞ…

ブン大将 何ですと…

女大公 (ポール王子に、ブン大将に、ピュックに) 何も…何も…皆の者、部下たちを配置しに行きなさい、配置が済んだら戻ってくるのです、3人とも…そなた、グログ男爵は、ここに残りなさい。

グログ (驚いて) 殿下!

女大公 うむ、何じゃ…そなたはわらわに謁見を願うておったじゃろう…いま、目通りを許す…(共謀者たちに) さあ、者ども、かかれ!

ポール王子 (小声でグログに) グログ、熱弁を振るえ!

(ブン大将、ピュックとポール王子は下手第1の扉から退場。女大公はちょっと彼らについて行きかける。グログは上手へ歩く。この動作のあいだ、オーケストラではメロドラマの曲。)

第4場 女大公、グログ。

Nr. 13 Melodram

女大公 (グログのところへ戻り) そなたにはびっくりしたが、何とも上品な様子でいらせられるのう。

グログ 殿下!…

女大公 何もかも好ましい。

グログ よろしければ、わが王子の話をしたいたいのですが。

女大公 あとでな…まずは、そなたのようなものを友に持った幸せを祝わせてくれ。

グログ 何ですと。

女大公 他でもない!…わらわのため復讐してくれる人数のなかにそなたが入っておったことじゃ!

グログ おお! その件ならば、友情から出た件ではまったくござらぬと告白いたします…殿下がわたくしにどうしてもお目通りをお許しになりませんでしたので、

- 何もすることがなくて退屈しておりました。ちょっとした気晴らしのため悪だくみに加わったのでございます。
- 女大公 気晴らしのためとな。
- グログ 他に理由はござりませぬ。
- 女大公 そなたのそのような話ぶり、いたく気にいったぞよ！…人を飛びあがらせるようなことを言いながら！…顔の筋一つ動かさんとは。
- グログ 教育のたまものでございます。
- 女大公 ああ！…
- グログ わたくしがまだ小さかった頃から、家族でわたくしを外交の道に進ませようと決めてしまい…冷たい感じを保つように仕むけられたのです…ほんとに小さいころから…
- 女大公 (ほほえみながら) 遠い昔のことだね…
- グログ そうです。とても遠い昔のことでございます…小さかった頃、冷たい感じを保ちそこねたのが見つかったら、何度もムチを食らったものでございます。
- 女大公 かわいそうな子だね！…そなたに少し助言をしてもよいかえ。
- グログ どうぞお願い申します。
- 女大公 そのときが来て、フリッツをやっつける段になったら、そなたは前面に出てはならん…人相が変わるような向かい傷を負うかも知れぬからなあ。
- グログ ああ！…結構ですとも！
- 女大公 ほかの者のうしろにいなさい…ことが終わり、分け前を分配するだけとなったら、他の者はそなたよりあと回しにします。(グログは唇をかすかに動かす。) どうかしたのかえ…そなたの唇がちょっと動いたよ…こんな風に。(彼をまねる。) 他の人には何でもないことでも…お前にとっては大笑いの爆発に当たることだろう。
- グログ その通りです！
- 女大公 そなたのことはすっかりわかってしまったね！…お前がそれほど笑う理由は何じゃ、話してくれるかえ。
- グログ できません、
- 女大公 できぬとは、友よ、何事か。
- グログ ただし。
- 女大公 何じゃ。
- グログ 1時間まえには、殿下はフリッツ將軍の顔のためにぶるぶる震えておいでになった…でも今はわたくしの顔のために、わたくしのまえで震えておいでになる…
- 女大公 (ほほえんで、脇ゼリフ) しゃくにさわるが、本当だね！
- グログ もし自分が優位に立ちたいとか、成果をあげたい時には…
- 女大公 ううむ！…ならぬ！…
- グログ だめです。
- 女大公 その話はやめておこう！
- グログ わたくしの王子について話すとすれば…
- 女大公 あとでな…お国では何をしておったのじゃ…お国、そなたの主君の宮廷では…侍従かや…
- グログ 陸軍大佐の身分もいただいております。お城のなかでだけですが。
- 女大公 わらわの城なら、もっと位が上がるぞよ、選帝侯へのご奉公を辞して参られれば…
- グログ 残念ながら、わたくしにはできません。
- 女大公 できぬと…
- グログ まさに！…殿下が当家の王子をめとられることに同意なさりませぬうちは…
- 女大公 (脇ゼリフ) あれ！あれ！あれ！
- グログ そのあとなら、ことは簡単でござい

ます…

女大公 そなたの王子をめとるか…そこに話を戻すのか!…

グログ そのこと以外を話しているとは思いませんでしたが。

女大公 さすがじゃ、男爵…高名な外交官だけのことはある!

グログ 何とぞ、お願いいたします、殿下、わが王子をめとってくださませ…あの方が善良な若者であることは保障いたしません…

女大公 高名な外交官じゃな…ほかに言いようはないわ!…

グログ さて、どのようにご決定遊ばしますか。

女大公 その話をさせたいのかえ!…わらわにはわからぬ。

グログ ああ!

女大公 おわかりか、このすべてが、わらわの頭のなかで回っておる…回るわ! 回るわ! …フリッツ!そなた!王子!…またその奥にはピュックとブン大将も!…殺させるべきか、殺させぬべきか。もし殺させるなら、誰をか…フリッツにすべきか…それともそなたにすべきか。

グログ わたくしとは。

女大公 わらわには何にもわからぬ…わらわはここにおるが…何もわからぬのじゃ…まったく何も…

(ポール王子、ブン大将とピュック、下手第1のドアから戻る。)

第5場 前場と同じ、ポール王子、ブン大将、ピュック。

ポール王子、ブン大将とピュック (お辞儀しながら) 殿下!

(ポール王子はせかせかとグログのところに行く。)

女大公 誰かえ…ああ!皆様方でしたか…

ポール王子 (小声でグログに) どうじゃな。

グログ (小声で) 上々の首尾。

ポール王子 (小声で、真情を抑えきれず)

ああ! 友よ!

女大公 (ブン大将に) 部下の配置は終わったかえ。

ブン大将 はいであります、殿下!

女大公 では、改めて連中を見つけて、もう家に帰ってよいと伝えにお行き。

ピュック (驚いて) 何とでござるか。

女大公 (グログの方を眺めながら意味ありげに) 襲撃はやめじゃ。

ブン大将 (あきれて、鋭く) だって、そんな!

女大公 (厳しく) 文句があるか。

ブン大将 文句などとてもない…まさか殿下の御前では…ですが、もし殿下の御前でなければ…要するに、そんなご指示は我慢ができませんわい!…

女大公 そなたらは我を忘れておるように見うけるが!…

ブン大将 まさか、したが…あの…何もかも示しあわせて、うまくしつらえましたのに…最後のところで拙者どもにおっしゃることがこれでは…

ポール王子 感じ悪いですねえ…悪だくみのために徒党を組んだつもりが…

ピュック 何も手をつけず…やつはまさにお楽しみの真っ最中…

女大公 襲撃はやめと申したのじゃ…

ブン大将 そりゃまたなぜに。

女大公 わらわの婚姻の日に男を襲うなど、不都合であるぞ!

(皆、驚く。)

ピュック 殿下の婚姻の日ですと!…

ポール王子 (喜んで) ついにそう言ったのだね、いとしい人、ついにそう言ったのだね!



女大公 はい、申しました。

ポール王子 本当に、とうとう同意したんだね…

女大公 さようですとも、わらわは同意いたします。男爵にお礼を申し上げて、あなたからもたっぷり。この方の雄弁に抵抗できなかったのです。

ポール王子 (有頂天で、グログに) ああ！男爵！毎年、1年に1日だけ、パパはぼくに辺境伯の権利を与えてくれたんだ。お金をくれるよりもそっちの方がいいと思ってたみたいで…そうそう、これだけは君にも言ってなかったよね…

女大公 (感激の身振りをしているブン大将とピュックに) 良いかな、ブン大将…良いかな、ピュック男爵。

ピュック 良いのですが、殿下、殿下が殿下ご自身のために燃やした火に点火するのが明らかな日に…なんだか収まりが悪いような…

ブン大将 反論はありませんが、確かに感じは悪いですな！…あのフリッツめは、わしにありとあらゆることをやってのけたのですぞ！…わしの誇りであった羽飾りを取りあげ！…わしに幸せを与えてくれたであろう娘を取りあげ！…仕返しもしないとは！…(力をこめて) 敵だ！…どこじゃ…。

女大公 (彼をさえぎって) 何ごとか。好きなように仕返しはしなさい…もちろん、やり過ぎにならないようにね…

ブン大将 いたずらの限度を超えぬ限りとしたしまして…

女大公 そうですとも！

ピュック ならばです、あやつを働かせる手ごろな遠征作戦が見つかったら、お許しをくださいますか…

女大公 許すどころか…わらわの口から言わ

せたいのかえ…そうできればわらわもううれしいぞよ…

ブン大将 おお！そんなら…

(楽隊の音楽)

女大公 あの者はどこへなと連れていけ…何か見つけなさい、そなたらで気をつけて…ポール王子！

ポール王子 (いそいそと) いとしき人…

女大公 2時間後に、教会で…時間きっかりにな…わらわはあなたをめぐむ際に身につける機会に着用する40着の結婚衣装から一つを選びましょう…(彼女は上手に向かう。ポール王子は彼女の手をキスしようとする。女大公はその手を押しつけながら言う。) おお！まだですよ！…(扉の近くに来て振りむき、言う。) 神のご加護を、皆様！(退場。)

ピュック (下手に耳を向け、ブン大将に) さあて…あいつのことはどうしてやろうか！

ブン大将 いたずら心を奮いたたせるぞ！…わしらでささやかな婚礼の一夜をしつらえてやろう…

(ブン大将とポール王子はグログの近くに並ぶ。下手第1の扉から結婚衣裳のフリッツとワンダ入場。お城の貴顕淑女が皆ついてくる。男女とも全員が金色のちょうちんを持っている。)

第6場 前場と同じ、ワンダ、フリッツ、廷臣たち。

Nr. 14 Melodrm und Hochzeitsgesang (Chor), Notturmo (Puck, Paul, Nepomuk, Bumm, Grog, Chor, Großherzogin) メロドラマと結婚の歌

合唱 さあ花嫁をその夫の部屋に連れてきます。

これで、奥様、あなた方だけをおいて

おいとまします…  
さあ花嫁をその夫の部屋に連れてきます!(楽隊の音楽)  
フリッツ 皆様方、どうもありがとう…どうもご親切に!…(ポール王子に、グログに、ブン大将に、またピュックに)ああ! 皆さん、ここにおいででしたか…  
ピュック そうとも、そなたを祝うためにな。  
フリッツ 皆様にもお礼を申します!…でも、さあ、こんなにお祝いいただいたあとですから、ほくのお楽しみの時間にしていただけますでしょうか…  
ピュック これからそうするつもりだが。  
フリッツ ああ、そうでしたか!…さあ、皆様、お休み、お休み!  
ピュック (フリッツに)お休み、閣下、お休み!  
他の皆 お休み!  
ピュック このささやかな一言でまったく十分だ。  
言いたいこともおわかりでしょう、幸せな仲間に、ご挨拶します、お休みなさい!  
皆 お休み!  
ブン大将 (ワンダに)それでは、奥さん!お休み!  
皆 お休み!  
ブン大将 ほめられたのでほほえんでいる。何の話をしていたかも知らずに。  
新婦さん、ご挨拶します、お休み!  
皆 ご挨拶します、お休み!  
お休み!(全員退場)  
(フリッツとワンダ以外は、全員下手へ去る。グログ、ブン大将、ピュックとポール王子は新郎に深々とお辞儀したあと、最後に退場。)

第7場 フリッツ、ワンダ。  
フリッツ (歓びに飛びあがり)とうとう、ほくら二人だけだ!  
ワンダ そうね…残念じゃないわね。  
フリッツ ほくもだ、やれやれ、ほくもだ!  
ワンダ でもそれだけじゃだめね…今こそ言っておきたいの、みんながあなたを祝福したあとで、今度はあたしもやっとおめでとうと言えるわ…  
フリッツ かわいいことを言うね!  
ワンダ (いんぎんな身振りで)将軍さま!  
フリッツ 結婚するのを待ちのぞむ気持ちに、貧しい若い兵士が相手の場合と、実際のところ、戦勝のほまれに飾られた総大将が相手と分かった場合で違いがあるかね…  
ワンダ 最初からはっきりしてることだけど…  
フリッツ 目がくらんじゃったんだね…白状しなよ、かわい子ちゃん。  
ワンダ そうじゃなくて…でも…  
フリッツ でも…目がくらんじゃったんだよ…何でか…こんな羽飾りや階級章や飾りひものおかげで…でも自分でもすぐにはずす気にはならなかったんだよ…(彼は帽子、将校用の毛裏の上着(pelisse)、佩囊(sabretache)[騎兵用の腰につける物入れ]をとり、奥のコンソールテーブルのうえに置く)  
ワンダ ねえ、あの…あんた何してるの。  
フリッツ 安心させてあげる、かわい子ちゃん、安心させてあげる。  
ワンダ おお!でも…人を安心させるにもやり方はあるでしょうに、ねえ…  
フリッツ ふむ…だめかい。夫と妻のあいだで…だってほくたち夫婦だろ、違うかい。  
ワンダ そりゃまあ…そうね…  
フリッツ (彼女の近くに寄りなおし)さあ

…君もほくみたいにやんなよ…

ワンダ 何よ…

フリッツ ほくは羽飾りを取ったんだ…君も羽飾りを取りな。

ワンダ ちょっと待って…

フリッツ 何でちょっと待つのか…いつもこんなに臆病なんだ！…ほくの身分のせいだね…そうだろう…わかってるんだ、二人きりでいるのに…ここで…豪勢に飾りつけた邸宅でなく、君の質素な小屋にいれば、そんなにためらわないだろうよ…でもほら！…階級が上がっていき、格式を持って振舞うにつれ、どうしても目に立つことはあるけれど…さあ、そんなに気にすることは…「素敵な君…」としか言うことはない、これでやっと安心できるはず…おお、ほくのワンダ！…（彼女を全身で抱きしめる。）

ワンダ（身を振りほどきながら）そうね、ほんと言うと、わたし、ちょっと怖いのも…

Nr. 15 Couplet (Wanda) 小唄

I

神様、わたしはきつと馬鹿なのね！

ほんとにこの人の外套の金糸や頭の羽飾りで

気後れさせられるなら！…

神様、わたし、きつと馬鹿なのね！

どうして、まあ、彼を怖がるの、わたしの夫なのに！

（このとき、荒々しい太鼓の音が外で聞こえる。）

あれ何かしら。

フリッツ 知らない…（再び太鼓。）

叫び（窓のしたから）フリッツ大将万歳！

ワンダ（窓の近くに行き）あなたを呼んで

るわ。

フリッツ これは寝覚めの曲だよ（aubade）…「素敵な君…」と言うだけの、寝覚めの曲だね…勝利のあとのお祝いだから、これもありだよ…でも別の機会にしてもらえるといいんだけど。

新たな叫び フリッツ大将万歳！

ワンダ みんな帰っていかないわ！…

フリッツ やあ…ほくが話しにでるまで待っているんだ…帰ってもらうには、それしかないようだ…

ワンダ なら、みんなに話をなさいよ…でも感じ悪いってあとからあたしに愚痴りそうね…

（フリッツは窓に向かい、それを開ける。新たに太鼓の響き。）

新たな叫び フリッツ大将万歳！

フリッツ（窓で）太鼓手の皆さん…自分の神経が細いと皆さんに宣言するつもりはないのですが…お話いたしましょう…たぶん、ご存じないのかもしれませんが…わたくしは、今日、結婚いたしましたのです…だから、おわかりいただきたい…お休み、太鼓手の皆様…では、お休み、お休み！…（金をばらまく。）

新たな叫び フリッツ大将万歳！（太鼓、遠ざかる。）

フリッツ（窓を閉めたあと、ワンダのところに戻りながら）見たかい、終わったよ…おお、ほくのワンダ！…

II

人は愛らしくも恐ろしくもなれるもの！ほくは全軍総司令官、わかってるさ…しかし、司令官の皮の下には…見えるだろう

神経が細く

愛らしくも恐ろしくもある男がいるのさ！

ちえっ、どうして怖がるの…  
君の夫だぜ！  
(彼はワンダにキスする。窓の下から軍楽の響き。)

ワンダ またよ！…  
フリッツ (上手へ歩き) 今度は音楽だよ…  
気をつけておくべきだった…太鼓が鳴ったら、いつでも音楽がはじまるもんだ…  
(音楽のつづき。)

叫び (窓の下で) フリッツ大将万歳！  
ワンダ ああ、あんたの愚痴が聞こえるようだわ…  
フリッツ どうしてほしいんだよ…話をしてくるよ…(窓のところに戻り) 楽士の皆さん…  
(音楽やむ。)

新たな叫び 大将万歳！(フリッツ、花束をぶつけられる。)

フリッツ (ワンダに)ほら！…好意的だよ！…(顔面に花束を受けて)ほんとに好意的だ！…(ワンダは花束を拾いあつめ、テーブルに置く。フリッツは楽隊に話しかけるために窓から身を乗りだす。)楽隊の皆さん…ここに来るまでのあいだに、皆さんは太鼓手の方々に会わなかったらしいが、残念です…もし彼らに会ったら、今日、わたしが結婚したところだと教えてもらえたかも知れない…もうおわかりいただいたと思うが…お休み、楽隊の皆さん…お休み、お休み！(金をばらまく。)

新たな叫び 大将万歳！  
フリッツ これでもう確かに行ってしまったよ…(窓を開けてワンダのところに戻り) おおほくのワンダ！どこまでやったっけ…(思いだして) ああ！…途中まで戻ろう…

(口づけしようとする。そのとき、隠し扉を除き、全部の扉を乱暴にノックする音。)

ワンダ (おびえて) 今度は何かしら…

第8場 前場と同じ、やがてブン大将、ピュック、ポール王子、グログ、侍女たち、男女の廷臣たち、小姓たち、やがてネポムク。

#### Nr. 16 Ensemble

合唱 (外で) 開けろ、開けろ、急げ、  
さもなき力づくで探しだす。  
開けろ、開けろ、新郎新婦よ、  
さもなき力づくで扉を壊すぞ。

ワンダ いとしい人、開けないで！

フリッツ 怖がらないで！

ワンダ おお神様！扉がたわんでいる！  
ああ！怖くて死にそうよ！

(扉が開く。下手扉から、ポール王子、ピュック、グログ、城の紳士淑女たち、上手扉から侍女や小姓らが入場。)

ポール王子、ピュック、ブン大将とグログ  
神をたたえよ！…時間通りについたぞ！  
フリッツとワンダ (脇ゼリフ) この人たちはぼくたちをどうしようというんだ。

ピュック (彼はフリッツとワンダのあいだに割りこみ) 馬へ！馬へ！

速く、大将閣下！

(ワンダ、フリッツの隣に戻る。)

合唱 馬へ！馬へ！

速く、大将閣下！

ポール王子 (今度是他がフリッツとワンダのあいだに割りこみ)

いくさがすぐにここまで来ますよ！

すばやいことが大事です！…

逃げたはずの敵が攻勢に  
転じて戻ってきたのです。

(ワンダはまた夫の方に戻る。)

合唱 いくさがすぐにここまで来ますよ！など、など。

ブン大将 (ピュックとポール王子と同じ動作)

われらが女主人があなたを招いております、

息切れなさいませぬように。

退却はなさりますまい。

決定的な成功を収めるまでは。

(ワンダはまたフリッツの隣に戻る。)

合唱 われらが女主人があなたを招いております、など、など。

(この合唱のあいだ、ピュックが下手へ出る。)

フリッツ (ブン大将のところに行き)

わがよき友よ、わたしが新婚ほやほやなのをお忘れか…

ブン大将 それがどうかしたのか！…行かねばならぬ！

勝利か死かをつかむがよい！

フリッツ ならば、妻はあなたに託します…

(ワンダをブン大将のほうへ押しやる。)

ブン大将 (ワンダの手を取り) いいですとも…奥方はわれらで守りますぞ。

(ワンダをポール王子のほうに押しやり、王子はワンダを落ちつかせようとする。)

だが急ぐのだ。

焦るのだ。

フリッツ (取りみだして) おれのベルト(ceinturon)はどうしたろう。

合唱 彼はベルトをどうしたろう。

(フリッツが装備品を名指ししていくにつれて、一人の紳士がピュックにそれを渡し、ピュックはそれをフリッツに渡し、彼がそれを身につけるのを手伝う。この動作はたいへん速く、一糸乱れずお

こなわねばならない。)

フリッツ おれは衣装を着こむのに、ベルトがいるのだ。

合唱 ほらベルトです。

フリッツ でも佩囊がない…

合唱 佩囊ですよ！(ピュックがフリッツにそれを渡す。)

フリッツ それに羽飾りは…

おれの羽飾りは…

持ってきてくれ、お願いだから！

(ピュックは彼の頭に帽子をかぶらせる。)

そうだ！…でき上がりだ！

合唱 彼は飾り羽でごきげんだ！

ネボムク (上手から入り、サーベルをもってくる。フリッツに)

お待ちを、閣下、お待ちを！

ご存知のものをもって参りました！

フリッツ (セリフで) また、サーベルだ！(受けとって怒りをこめ)

わかってもらいたいなあ、あの方のお父上のサーベルよ…

あんたを見るといらいらするぞ！…

合唱 行かねばならぬ！

勝利か死かをつかむのだ！

馬へ！馬へ！

速く、將軍閣下！

いくさがすぐにここまで来ますよ！

馬へ！馬へ！

サーベルを取って、すぐに行きなさい！

馬へ！馬へ！

(この合唱のあいだ、ピュックはフリッツを無理やり下手の扉の方に連れて行こうとする。ブン大将はワンダを再び捕らえるが、彼女は何とか身を振りほどき、フリッツの腕に飛びこんでいく。ブン大将は改めて二人を引きはなし、フリッツ

がピュックに引っぱられ出発していくときに、幕おきる。)

第4幕<sup>9)</sup>

(野营地。第1幕と同じ装飾。テントのあいだに三つのテーブル。後景に客席正面向きで一つ。下手と上手に、やや斜めに二つ。)

第1場 ネポムク、グログ、ポール王子、ブン大将、ピュック、城の貴顕淑女、二人の衛兵、兵隊、農家の娘たち。

Nr. 17 Hochzeitschor (Puck, Paul, Nepomuk, Bumm, Grog, Chor) 結婚の合唱

(大朝食会の終わり。ネポムク、ブン大将、ポール王子、ピュック、グログは中央のテーブルに座っている。淑女たちは脇の二つのテーブルに座り、諸脚は彼女らのうしろに立っている。兵隊や農家の娘らは背景に控えている。衛兵らが飲み物をついで回る。)

合唱

食事の間はいくさと同様、  
ガンガンいって、皆、酔っ払え。  
歌え、飲め、ご馳走を喰らえ、  
新婚さんたちを祝って！

(この合唱の後、ポール王子、ピュック、ブン大将、グログとネポムクが、立ってまえに出てくる。淑女たちも立ちあがるが、テーブルのうしろにとどまる。皆、手にグラスを持っている)

ブン大将 (ポール王子に)

われらが愛らしい女主人も、

ついにあなたの情にほだされた！…  
飲もう、殿下、  
お祝いに、ラインの  
ワインをば！

合唱 そうとも、飲もう、殿下、  
お祝いに、ラインの  
ワインをば！

ポール王子 何とも不思議なことだ。  
そうは思わぬか？ 友よ。  
昨夜はちっとも好かれていなかったのに、  
今朝には  
結婚するとは！

合唱 結婚だ！  
ポール王子 こんなに急いだ結婚だなんて  
またもやびっくらこいたよ。

合唱 びっくらこいたよ！

合唱の繰り返し 食事の間はいくさと同様、  
ガンガンいって、皆、酔っ払え。  
歌え、飲め、ご馳走を喰らえ、  
新婚さんたちを祝って！…  
(女大公は舞台奥から上手に出てくる。  
彼女は丘を下ってくるが、侍女や小姓ら  
が後に従う。)

第2場 前場と同じ、女大公、侍女たち、小姓たち。

(侍女や小姓らは中央のテーブルのまえに並ぶ。)

女大公 (舞台前面に出てきて) 皆さん、ご機嫌よう。

ピュック ああ！ 女大公殿下！

ポール王子 (グラスを女大公に渡しながら)  
早く、殿下におつぎして！

ブン大将 荘厳なご夫婦のために飲もうぞ。

女大公 (グラスを手に) さて、親愛なるご友人方、あなた方と飲みましょう！

9) 英仏対訳パンフ版 (Offenbach 1867. 初演キャストによるニューヨーク公演のために用意されたと推察される。)では、この幕は第3幕の2景となる。各種CDでは2幕以下をまとめて一幕にしているものも多い。



Nr. 18 Legende vom Glas (Großherzogin, Paul,  
Puck, Nepomuk, Bumm, Grog, Wanda,  
Chor) グラスの伝説  
女大公 (グラスを手に)

I

わが記憶が確かなら、  
酒飲みのなかでも有名だと  
自負していた  
先祖がいました…

合唱 酒飲みのなかでも有名だと  
自負していた！

女大公 彼が使っていたグラスは  
大樽よりちょっと多く入るぐらいで、  
毎日毎夜、お酌係は彼のために  
グラスをワインで満たした…

合唱 毎日毎夜、お酌係は彼のために  
グラスをワインで満たした！

女大公 ああ！ご先祖様、何て飲み方！  
それに何と大きなグラスをもってこさせ  
たのかしら。

合唱 昔はこんな風に飲んだのさ！  
それに何と大きなグラスをもってこさせ  
たのかね！

女大公

II

ある日、誰もどうやったのか知らないけ  
れど、  
その大きなグラスを地面に落とした。

「ああ！」彼は、悲しみにくれて叫んだ。  
「ありゃ、グラスを割っちゃったよ！」

合唱 「ああ！」彼は、悲しみにくれて叫んだ。  
「ありゃ、グラスを割っちゃったよ！」

女大公 そこで皆がその代わりを出そうと  
したけど、  
「駄目だ！」と彼は言った。「うちのじゃ  
ないし…、  
他のグラスで飲むくらいなら

死んじまったほうがましだ！」

合唱 「他のグラスで飲むくらいなら

死んじまったほうがましだ！」

女大公 ああ！ご先祖様、何て飲み方！

それに何と大きなグラスをもってこさせ  
たのかしら。

合唱 昔はこんな風に飲んだのさ！

それに何と大きなグラスをもってこさせ  
たのかね！

(ポール王子は女大公からグラスを受け  
とり下手のテーブルに置く。唄のあいだ  
手に持っていたグラスを、皆、下ろす)

ポール王子 ああ！ わがいとしき妻よ！…

女大公 なあに、わがいとしき夫…

ポール王子 とうとうほくらは結ばれたね！

…これからは一心同体だよ！…

女大公 (軽く) そうね…そうね…

ポール王子 これもグログ男爵のおかげ…さ  
あ、最愛の人、彼には何か似合いのお返  
しをしなければいかんね。

女大公 あなたのご意見かしら…

ポール王子 ほく 의견だよ。

女大公 (グログを眺めながら) わらわはあ  
なたには何も拒めないわ…さあ、何がで  
きるかしら…わらわの意志で与えられる  
寵愛を他の人にすっかり与えてしまっ  
たんですもの…ピュック男爵…ブン大将…  
ピュックとブン大将 殿下…

女大公 フリッツ將軍はどうなったの…この  
野營地で会えるはずと言っていたけど。

ピュック 將軍は時間通りにここにお見えに  
なるはずです…殿下がお立てになった計  
画からそれず、いたずらにはまったまま  
でおるのです…將軍とそれがして、ささ  
やかな茶番劇をしかけたのです…

女大公 何の茶番劇か…

ブン大将 わしからお話しましょう、殿下…

この十年間、わしは毎週火曜日の晩にロカピックの奥方のお宅を訪ねることを習慣にしております…

女大公 おお！…

ブン大将 ヘヘッ！…昨日、火曜日ですが、ご婦人から手紙が来まして…文句は「今晚は来ないで…彼がとうとう何か、かぎつけたの…杖と友だち何人かと一緒にあなたを待ちかまえてるわ…」この件で、わしはあることを思いつきましたじゃ…わしはフリッツ将軍に言いました。「すぐにロカピックの城で会おう、52番のうちの43番目と43番のうちの32番目が見つかるから…」

女大公 それで、彼は城に行ったのかえ…

ピュック 行きました…52番のうちの43番目と43番のうちの32番目ではなく、夫を見つけたことでしょう…

グログ 手に杖をもった…

ブン大将 奥方のところに着くのに1時間、夫と話あって半時間…、そして帰ってくるのに2時間…フリッツ大将は近くまできているはずです…

叫び (外で) 将軍だ！…将軍だ！…

ブン大将 (女大公に) お話した通りです！  
(ワンダが舞台奥から下手に走りでて、舞台前面まで来る)

第3場 前場と同じ、ワンダ、やがてフリッツ。

Nr. 19 Klage lied 嘆きの歌

ワンダ わたしの哀れな夫が帰ってきた！  
何たる状態！…ああ！ご覧なさい  
功名を追う者の  
成果はこんなにぼろぼろ！

合唱 成果はこんなにぼろぼろ！  
(奥から下手へすっかりぼんやりとして

フリッツ入場。みじめな状態で、肩章はなくなり、羽飾りはすっかりむしられ、手にしたサーベルはねじれている)

フリッツ (女大公に)

小唄 (couplets)

さて、殿下、ここに戻りました！

おお、らら！

あちらで経験したことは、

おお、らら！

いくさと呼んでもよいものでござりました。

連中はわたしを

こんなみじめな姿にしたのですから！…

あなた様の有名なサーベルも、  
こんなコルク抜きみたいにしてしまいました！

おお、らら！

ええ！くそ！全軍総司令官の

嘆きはこんな感じですよ！

合唱 (彼をあざけりながら) ええ！くそ！

全軍総司令官の

嘆きはこんな感じですよ！

フリッツ

II

到着すると、夫がいました、  
ちくしょう！

やつが言うには、「こっちへ来い、  
友よ」。

丁重な調子で答えました…

「いいですとも！」

すると、力いっぱい、

裏切り者はぼくちゃんに襲いかかった！

…

それでまだこんなにぼーっとしてます。

ちくしょう！

ええ！くそ！全軍総司令官の

嘆きはこんな感じです！

合唱 ええ！くそ！全軍総司令官の  
嘆きはこんな感じです！

女大公（フリッツに）そなたは自分の振舞  
いに他の説明ができないのかえ。

フリッツ 何ですと…ほくにはまるで…

女大公 そのうえ、勅命で、軍隊の指揮官に  
してやったにもかかわらず…よその家庭  
を引っかき回して自分を笑い物にしたの  
だよ！…

フリッツ そんな、まさか！…

女大公 これは反逆罪ですぞ、閣下…それに  
そんな姿でよくわらわのまえに出て来ら  
れたものだね…

フリッツ それは、申し上げました通り…

女大公 それにわらわの父のサーベルは…な  
んて素敵なありさまかしら。

フリッツ 悪いのは杖を持った親父ですよ…  
ブン大将（フリッツに）情けない兵隊じゃ！

フリッツ そこで何と言われる…何とおっ  
しゃるので…

ピュック（女大公に）この際、とるべき手  
だては一つしかありません、殿下…ささ  
やかな戦時法廷を開き…罪人を裁くので  
す…即刻。

フリッツ 戦時法廷だって！

女大公（フリッツをまねて）ええ！くそ！  
…

フリッツ わたくしが何と返答いたすと思  
いですか！…公国の貴族全員が揃った場  
所以外で尋問を受けるわけにはいきませ  
ぬ…わたしはアヴァールーヴィントー  
カットーショップーヴェルジスマインニ  
ヒト伯爵ですぞ！

女大公 まことに… そなたはアヴァールー  
ヴィントーカットーショップーヴェルジ

スマインニヒト伯爵であるからして、裁  
かれることはない… ふむ、ならばそな  
たはもうそれではない…

フリッツ そうかい、ありがたい！…

女大公 何を言いたいかね、大佐。

フリッツ わたしは將軍だと思っていまし  
た。

女大公 わらわは大佐と申した。

フリッツ そうかい、ありがたい！…お望み  
なら…大尉ではいかがです…

女大公 大尉な…よかろう。

フリッツ 少尉ではいかがです。

女大公 少尉か…それじゃ！

フリッツ では、軍曹ですかね。

女大公 軍曹か…あいわかった。

フリッツ すごい！まさかね！…すごい！ま  
さかね！…

女大公 なぜそこでやめるのじゃ…まだ伍長  
があるぞ。

フリッツ 伍長、結構です…今度は兵卒です  
ね。

女大公 兵卒だ…申す通りに！

フリッツ 兵卒ですか。

女大公 他はないか。

ブン大将（フリッツに）わしは言わせても  
らうぞ、つかまえた。情けない兵隊め…  
オーオー！

フリッツ ああ！兵卒だ！…ああ、それなら、  
辞職を願います。

女大公 よろしい！受理する。

フリッツ ああ！感謝いたします…じゃ、お  
休みなさい！…おいで、ほくのワンダ…

女大公 さて、この階級…この名誉…どうに  
かせねばな！…

ブン大将（脇ゼリフ）希望が蘇る！…

女大公（ポール王子に）王子…今すぐあな  
たのご助言に従います…グログ男爵、近  
う…

(満足げな様子で近づいてくる者を見ながら、ポール王子は少し奥へ下がる。)

グログ (近寄りながら) 殿下!

女大公 (フリッツの帽子から羽飾りを取り、グログに与える) そなたに羽飾りじゃ! …羽飾りをとれ! …

ブン大将 (脇ゼリフ) おお! 憤怒!

女大公 (サーベルを取り、グログに与える) そなたに、わが父のサーベルを! …わが父のサーベルを取りなさい! …

ブン大将 (脇ゼリフ) おお! 大激怒!

女大公 男爵、そなたに…文官および武官としてのすべての権利を与える。

グログ 感謝です、殿下! …わが妻も殿下を祝福いたすでしょう。

女大公 (ぼうっとして) そなた、何と申した…

グログ わが妻も殿下を祝福するでしょうと申しあげました。

女大公 (ポール王子に) 妻がいるの! …

ポール王子 (晴れ晴れとした様子で) そうですとも、最愛の方。男爵には妻と3人の子がおります。

グログ 4人です、殿! …この滞在中に、もう4人目が生まれているはずです。

女大公 妻に4人の子ども! …グログ男爵…

グログ 殿下…

女大公 (勢いこんで) 羽飾りを返して! …サーベルを返して! …(それらを取りかえしブン大将に話しかける) 羽飾りを取りもどしなさい、ブン大将!  
(ブン大将はせかせかと女大公に近づき、彼女はブン大将に羽飾りを渡す)

ブン大将 (自分の場所に戻りながら、脇ゼリフ) 今度はネジどめさせますわい。

女大公 (ピュックに) ピュック男爵!  
(ピュックは女大公に近づき、彼女はピュックにサーベルを渡す。) このコル

ク抜きをとりなさい。そちをわが父のサーベルの管理官に任命します!

ピュック (脇ゼリフ。元の場所に戻り、剣を見ながら) もう一本作らせましょう。

フリッツ ああ! これでいい! …みんな何かを受けとった…ほくはと言えば、何もない…棒でぶん殴られたただけだ…

女大公 これ、わらわは善人さ…何がほしいかえ…

フリッツ 自分の村の校長先生になりたいです。

女大公 そなた、字は読めるのかえ…

フリッツ いえ…自分が学ぶためですよ。

女大公 (笑いながら) よろしい。その職に任ずる。

フリッツ どうも、ありがとうございます。

女大公 (グログの方に向き) そなたについては、グログ男爵…

グログ 殿下…

女大公 今晚、選帝侯たるわれらが義理の父君の城へと戻りなさい。

グログ 何ですと…

女大公 そこで、われらの幸せを報告するのです…わらわは王子をめぐって幸せなのですから…とても幸せですと…(ポール王子の手を握りしめる。)

ポール王子 (小さな叫びを上げる) あいて! …

女大公 さあ、あなたのお望みはなあに…(脇ゼリフ。フリッツとグログを見ながら) 愛しているものが手に入らぬなら、手元にあるものを愛さねばならんのじゃ。

Nr. 20 Finale (Fritz, Wanda, Großherzogin, Chor) フィナーレ

ブン大将 (脇ゼリフ) とうとう羽飾りを取りかえした!

ピュック (脇ゼリフ) とうとう権力を取り

もどした！…

ポール王子（女大公に）とうとう結びの神  
がほくとそなたを結びつけた！

グログ とうとう、かわいい子どもたちよ、  
お前たちにまた会える！

ワンダ（フリッツに）家に戻りましょう！  
フリッツ そうとも、家に戻ろうよ…ほら！  
女大公（ポール王子を見ながら、脇ゼリフ）

いくさ場らしいいくさ場！

わらわの幸せもたぶんそこにある…

フリッツ（酒飲み歌の調子で）  
やれやれ！ほくはいくさはやめたけど、  
国を守るための  
小さな兵隊を約束するよ！…  
（ワンダに）ついてくるだろ、素敵な恋人。

合唱 国を守るための

小さな兵隊を彼は約束する！

女大公 悪いことより良いことが多い  
役割を演じ終えて、結婚します。  
意外だけど、道德にかなってる！  
喜劇の幕が下りる。

合唱 意外だけど、道德にかなってる！  
喜劇の幕が下りる。

女大公 ああ！ご先祖様がわらわを見れば、  
ああ！どんなに喜んでくれるでしょう！

合唱 ああ！ご先祖様が彼女を見れば、  
ああ！どんなに喜んでくれるだろう！

終わり

## 参考文献

- Meilhac, Henri et Ludovic Halévy, n.d. [1900-1902],  
«La grande-duchesse de Gérolstein,» *Théâtre de  
Meilhac et Halévy de l'Académie française*, II, Paris:  
Carmann Lévy, 179-305. (=2021, 鎌田大資訳,  
本稿上編, 『金城学院大学論集』社会科学編,  
17(2): 4-30 (1幕, 底本pp.179-230); 本稿 (2-4  
幕, 底本pp.231-305.)).
- 森佳子, 2017, 『オペレッタの夜明け——オッフエ  
ンバックと日本近代』青弓社.
- Offenbach, J., 1867, *The Grand Duchess of Gerolstein:  
A Comic Opera in Three Acts (Translated from the  
French of Messrs. Meilhac & Halévy)*, New York:  
John A. Gray & Green (Printers). (パンフレット)
- 1967, *Die Grossherzogin von Gerolstein (La  
grande-duchesse de Gérolstein)*, Berlin: Bote &  
Bock. (ピアノ譜)